

議事録

会議名	金属・セラミックス技術委員会 (H14年度第2回)	主催者 電気学会
日時	平成14年9月20日(金)	場所 古河電工 本社(丸の内)
出席者	田中(ISTEC)、前田(日立)、戸叶(物材研)、吉川(横国大)、一瀬(代理、電中研) 三村(古河)	
<p>【結論】本委員会は電気学会会員の比率が低いため未承認であるが、正式承認の手続きを進めている。今後の活動として、新規専門調査委員会(デバイス実装技術)の設置、ナノテクと超電導のシンポジウム開催、本委員会のHP開設などを行う。</p>		

【議事】

1. 運営委員会(8/29)について(運営委員会メモ参照)

- ・ 8/29の運営委員会で、8/6提出の本委員会委員変更は承認されなかった。理由は本委員構成の電気学会会員比率が36%と低いため(原則は100%らしい)。新規入会予定委員がいることを踏まえて説明理由書(変更届けとお願い参照)を作成中で、今回の委員変更届は別途審議される予定である。
- ・ 日本板硝子の中井委員を竹村委員に変更する。
- ・ 技術報告書の売り上げに応じて(貢献度に連動して)技術委員会等に費用還元する提案に関して、本委員会としては電気学会に一任する。
- ・ H15年度シンポジウム「ナノテクと超電導」は承認された。
- ・ 「デバイス調査専門委員会」は解散し、研究会を開催し報告書の販売を行った。
- ・ 新規の調査専門委員会「デバイス実装技術」は保留(一応承認)で、委員構成(会員比率30%以上)を踏まえて別途(12/6)審議される予定。
- ・ ホームページの開設は承認(電気学会から指示済みらしい)。

2. H14年度計画進捗報告

- ・ 本委員会の開催予定は、4回/年。
- ・ 「デバイス調査専門委員会」は9/Bに研究会開催で、解散に伴う書類提出のみ。
- ・ 同様な調査専門委員会を立ち上げたいとの意見が上記委員会会員から出ている。
- ・ アンケートを実施して、同様な調査専門委員会を12月に提案する可能性あり。
- ・ この後継専門調査委員会と下記のデバイス実装の調査専門委員会の棲み分けを検討する。
- ・ 「超電導の調査専門委員会」は6回/年の予定だが、実際は3回/年程度。
- ・ 研究会は3回/年の予定で、2回は実施済み。
- ・ 論文数は20以上を目標。
- ・ ホームページ開設を予定。

3 . H15 年度計画（案）について(H15 活動計画参照)

- ・ 中期テーマとしてデバイス実装を取り上げ、本委員会で扱う。
- ・ 長期テーマとしてナノテクを取り上げ、研究会やシンポジウムで扱う。
- ・ 「デバイス実装調査専門委員会」を新設予定(H14,10～H17,9)。
- ・ ナノテクと超電導でシンポジウムを開催予定(H15,3/17-3-19)。
- ・ 本技術委員会の研究会として、シンポジウムや大会発表をカウントする。
- ・ 本技術委員会は4回/年の予定、その他は資料参照。

4 . 新規調査専門委員会提案について（設置趣意書参照）

- ・ 高速伝送（ギガビット）をテーマとして通信情報モジュールを取り上げる。
- ・ 調査対象は、半導体、光、超電導で、これらデバイスの実装技術までを取り扱う。
- ・ 運営委員会には仮承認で、委員構成と合わせて別途審議される。
- ・ 委員長及び委員の候補は別紙(人材マップ参照)の通りだが、まだ検討中である。

5 . 研究会の進め方について(大会シンポジウム提案書参照)

- ・ 本技術委員会の研究会として、シンポジウムや大会発表をカウントする。
- ・ ナノテクと超電導のシンポジウムの題名はわかりやすいものに変更する。例えば
 ナノ結晶組織の NbTi 超電導線
 F 化合物等による新しい Y 系超電導線
 超電導を用いたナノ接合デバイス
 超電導を用いた高速回路技術

6 . 金属・セラミックスホームページ開催について

- ・ 田中委員長を中心にHP開設を行う。

7 . その他

- ・ 次回は12/Bの予定。

以上